

ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル 郵便番号104 電話 (3551) 6215~9
ロシア東欧経済研究所 [購読料・送料共前納 1ヶ月-1,500円 1ヶ年-18,000円]

平成8年3月15日

No. 1017

1995年のCIS諸国の経済
—再建に向けそれぞれの摸索が続く—

はじめに

CIS統計委員会の刊行する『統計通報』(1996, No.2 [138])に、CIS12カ国の1995年の経済実績が掲載されたので、本号ではこのデータを利用しながら同諸国の経済動向についてレビューする。

シリーズ ロシア大統領選を追う(4) p. 12

CIS全般 1995年のCIS合計のGDPは前年比5%の低下となり、1992年以来続いてきた二桁台の落ち込みによりややく一定の歯止めがかけられた。

1995年のCIS全体の工業生産は前年に比べ6%低下し、GDPと同様に落ち込みを一桁台にとどめた(1994年には23%減)。ロシアをはじめ大半の国で、工業生産の低下は前年よりも小幅になっている。これは、多くの国で輸出競争力のある原燃料・低加工部門の生産が持ち直してきたことによる。その一方で、内需への依存度の高い消費財部門などでは、依然として大幅な減産が続いている。

1995年に投資は、キルギス(前年比65%増)およびウズベキスタン(同2%増)で上昇に転じたものの、CIS全体では前年比で16%低下した。1995年におけるCIS全体の投資は1990年の32%の水準にまで落ち込んでいる。こうした投資活動の低迷は、今後のCIS諸国の経済成長を制約する大きな要因になるものと懸念される。

1995年にもCIS諸国では物価の上昇が続いたが、インフレ率は総じて前年を下回っている。1995年のCIS全体の消費者物価の上昇率は前年比で3.5倍であった(1994年には7.5倍)。

1995年末現在、CIS全体で約300万人の失業者が登録されており、公認失業率は2.4%であった(前年末には2.0%)。ほぼすべての国で公認失業者数は増加している。